

特 別 活 動

1 高等学校学習指導要領の改訂に向けて（中央教育審議会答申より）

(1) 改善の基本方針

特別活動は、望ましい集団活動や体験的な活動を通して、ホームルームや学校の生活を豊かにするとともに、よりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を養い、社会性の育成を目指すことをねらいとしているが、答申では、特別活動の課題を次のように整理している。

【特別活動における課題】（抜粋）

- 特別活動の充実が学校生活の満足度や楽しさと深くかかわっているが、他方、それらが子どもたちの資質や能力の育成に十分つながっていない状況も指摘されている。
- 情報化、都市化、少子高齢化などの社会状況の変化を背景に、生活体験の不足や人間関係の希薄化、集団のために働く意欲や生活上の諸問題を話し合っ解決する力の不足、規範意識の低下などが顕著になっており、好ましい人間関係を築けないことや、望ましい集団活動を通じた社会性の育成が不十分な状況も見られる。
- 特別活動について、全体の目標は示しているが、各内容ごとの目標は示していない。このため、活動を通して何を育てるかが明確でないことや、総合的な学習の時間などとの教育活動の重なりも指摘されている。
- 特別活動の中でも、その基盤的な役割を担うホームルーム活動の内容については、内容が網羅的になっているため、重点を置きたい内容の指導に力が注ぎにくいとの指摘がある。

こうした課題を踏まえ、特別活動と道徳、総合的な学習の時間のそれぞれの役割を明確にし、望ましい集団活動や体験的な活動を通して、豊かな学校生活を築くとともに、公共の精神を養い、社会性の育成を図るという特別活動の特質を踏まえ、次のような基本方針で改善を図ることとしている。

【改善の基本方針】

- ① よりよい人間関係を築く力、社会に参画する態度や自治的能力の育成を重視するとともに、道徳的実践の指導の充実を図る観点から、目標や内容を改善する。
- ② 各内容のねらいと意義を明確にするため、各内容を通して育てたい態度や能力を、特別活動全体の目標を受けて各内容の目標として示す。
- ③ 生徒の実態に適切に対応するため、生徒の発達の段階や課題に即した内容を示す。
- ④ 好ましい人間関係を築き社会性を育成するための体験活動や、生活を改善する話し合い活動、多様な異年齢集団による活動を一層重視する。
- ⑤ 生徒の資質や能力の育成に十分つながるよう、特別活動の全体計画と各内容の年間指導計画を作成して指導の充実を図る。

(2) 改善の具体的内容

高等学校の特別活動については、答申に示された改善の基本方針や小・中学校の学習指導要領改訂を踏まえ、次のような考え方の下に改訂される。

ア ホームルーム活動

ホームルーム活動については、①ホームルームや学校の生活づくり、②適応と成長及び健康安全、③学業と進路の三つの内容から構成することとする。その際、自らよりよい学校生活の実現に取り組む意欲をはぐくむとともに、社会的自立を主体的に進める観点から、集団や社会の一員として守るべきルールやマナー、社会生活上のスキルの習得、望ましい勤労観・職業観の育成、人間形成や将来設計といった人間としての在り方生き方の自覚などにかかわる事項に重点を置き、内容を整理する。また、学校生活への適応や社会的自立の重要性に鑑み、中学校から高等学校への接続はもとより、高等学校卒業後の進路実現に向けてより一層ガイダンスの充実を図る。

イ 生徒会活動

生徒会活動については、よりよい学校生活を主体的に築こうとする自治的能力や責任感の育成を重視するとともに、さらに、地域の大人や社会とのかかわりを深める社会貢献活動を重視する観点から、具体的な内容を示す。

ウ 学校行事

学校行事については、集団への所属感や連帯意識を深めつつ、社会的自立や社会貢献を念頭に置いた体験活動、実社会の中で共に生きること働くことの意義と尊さを実感する機会をもつことや、本物の文化に触れ、文化の継承、創造に寄与する視点をもつことが重要である。これらのことを踏まえ、奉仕体験、就業体験、文化的な体験などの体験活動を重視する観点から、学校行事の内容について改善を図る。

(参考) 高等学校現行学習指導要領及び中学校新学習指導要領の内容の比較

	高等学校現行学習指導要領	中学校新学習指導要領
ホームルーム活動 (中学校は「学級活動」)	①ホームルームや学校の生活の充実と向上に関すること。 ②個人及び社会の一員としての在り方生き方、健康や安全に関すること。 ③学業生活の充実、将来の生き方と進路の適切な選択決定に関すること。	①学級や学校の生活づくり ②適応と成長及び健康安全 ③学業と進路
生徒会活動	生徒会活動においては、学校の全生徒をもって組織する生徒会において、学校生活の充実や改善向上を図る活動、生徒の諸活動についての連絡調整に関する活動、学校行事への協力に関する活動、ボランティア活動を行うこと。	①生徒会の計画や運営 ②異年齢集団による交流 ③生徒の諸活動についての連絡調整 ④学校行事への協力 ⑤ボランティア活動などの社会参加
学校行事	①儀式的行事 ②学芸的行事 ③健康安全・体育的行事 ④旅行・集団宿泊的行事 ⑤勤労生産・奉仕的行事	①儀式的行事 ②文化的行事 ③健康安全・体育的行事 ④旅行・集団宿泊的行事 ⑤勤労生産・奉仕的行事

2 特別活動における展開例

答申では、親や教師以外の地域の大人や異年齢の子どもたちとの交流、集団宿泊活動や職場体験活動、奉仕体験活動、自然体験活動、文化芸術体験活動といった体験活動は、他者、社会、自然・環境との直接的なかわりという点で極めて重要であり、特別活動などにおいて行われている様々な体験活動の一層の充実を図ることが必要であるとしている。

本手引では、答申に示されている改善の基本方針を踏まえ、よりよい人間関係を築く力を育成するホームルーム活動と生徒会活動の展開例を示している。

(1) ホームルーム活動展開例

活 動	好ましい人間関係を築く力を高めるための体験活動			
本 時 の 目 標	人間関係を築く力を高める活動を通して、他人を思いやる心を育成するとともに、好ましい人間関係を築くための言葉のかけ方や断り方を身に付けさせる。			
本 時 の 活 動 内 容	ディスカッション及びロールプレイ (他人を思いやり望ましい人間関係を築くためには、何が必要か)			
展 開	○日 時 10月9日(3～4校時) ○内 容 ディスカッション及びロールプレイ ○場 所 1学年各ホームルーム教室 ○対象者 1学年全員(各クラスごとに実施)			
	<p>1 好ましい人間関係を築くことの重要性についての意識付け</p> <p>(1) 行事等で助け合いながら問題解決をした例を挙げながら本時のねらいを説明する。</p> <p>(2) 教師は、ロールプレイの【事例ア】について状況を説明する。 【事例ア】 休み時間に、生徒Aが隣に座っている生徒Bに、昨日見たテレビについて話しかけたが無視された。</p> <p>(3) 生徒は、ペアワークでそれぞれの立場を演じ、その後、お互いに感想を言い合う。</p> <p>(4) 教師は、ロールプレイに取り組む態度について観察する。</p> <p>2 ディスカッション</p> <p>(1) ペアワーク 教師が次の事例について実演し、その後、隣同士でペアワークをさせる。 【事例イ】 休み時間に、読書をしている生徒Cの本を、他の生徒Dが「その本見せて」と言って取り上げた。</p> <p>(2) ディスカッション(あらかじめ決めておいた5人×8グループで実施) ア KJ法を用いて2人の気持ちを整理する。 イ お互いに感想や意見を発表してもらい、声をかける側とかけられる側に立って課題を解決するための方策を探り、望ましいやりとりをスキット(寸劇)として完成させる。</p> <p>3 ロールプレイ 各グループのスキットをロールプレイとして発表する。(1分×8グループ)</p> <p>4 シェアリング 生徒は、気の付いたこと、感じたことなどをワークシートにまとめる。</p>			
指 導 上 の 留 意 点	<p>1 それぞれの活動のねらいを明確に説明するとともに、的確な指示を行い、生徒が活動しやすいように配慮する。</p> <p>2 話し合いにおいて、お互いの考えを揶揄したり、否定したりしないよう指導する。</p> <p>3 生徒が台詞を考えやすいよう、場面を単純化し状況説明を丁寧に行う。</p>			
評 価 の 観 点	関心・意欲・態度	他人への思いやりという問題を真剣に受け止め、ロールプレイや他の人の意見に関心を持って、メモなどを取りながら積極的に参加している。		
	思考・判断	人間関係が悪化する原因等について考察したり、自分とは異なる考えを理解したりするとともに、自分自身の考えを客観的に振り返ることができる。		
	技能・表現	他人への思いやりなどについて、自分の考えを筋道立てて説明するとともに、相手の考えを尊重して話し合いをすることができる。		
	知識・理解	好ましい人間関係を構築するために必要なことや、自分とは違う個性や価値観を認め合うことの大切さを理解している。		
LHR後の指導例	<p>1 生徒アンケートを実施し、活動前との意識の変化をまとめ、その結果を公表する。</p> <p>2 HR内における人間関係について、活動後の生活を日常的に観察し、指導する。</p>			
関 連 し た 年 間 計 画 中 の 活 動	4月	HR開き(グループエンカウンター)	10月	【展開例】ディスカッション及びロールプレイ
	6月	宿泊研修における班活動の話し合い		
	7月	学校祭に向けてのホームルーム討議	1月	学校生活におけるアンケートの実施
	8月	学校祭の反省に関する討議		

(2) 生徒会活動展開例

活 動	観光を共通テーマとして異校種が連携した社会貢献・社会参加活動及び活動報告会			
本 時 の 目 標	地域の基幹産業である観光にかかわる社会貢献・社会参加活動を共通テーマとして、小・中・高等学校のそれぞれにおける社会貢献・社会参加活動の実践を報告する「活動報告会」を高等学校の生徒会主催で開催し、異年齢集団による交流活動を通して、集団や社会の一員として協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。			
本 時 の 活 動 内 容	社会貢献・社会参加活動報告会（小・中・高等学校合同）			
展 開	○日 時 11月7日（5～6校時） ○内 容 社会貢献・社会参加活動報告会 ○場 所 高等学校体育館 ○対象生徒 第2学年（小学6年、中学3年）			
	※高等学校の生徒会役員が運営を行う。 1 開会式 中学校生徒会長による「開式の言葉」 2 各校種からの活動の報告（各校種20分） (1) 小学校の児童会役員からの町内の清掃活動及び観光案内看板設置活動の報告 (2) 中学校の生徒会役員からの地域の観光名所の清掃活動及び観光パンフレット・ガイドマップの作成、見学旅行先での地域の観光アピール活動の報告 (3) 高等学校の生徒会役員から駅周辺の清掃活動等及び外国語版のパンフレット・ガイドブックの作成、見学旅行先での地域の観光アピール活動、観光ボランティアガイド活動、観光物産展での販売ボランティア活動の報告 3 質問・感想・意見交流 4 来賓からの講評・助言 (1) 町教育委員会教育長や小・中・高等学校のPTA会長等からの講評・助言 (2) 町役場観光課や観光協会の担当者等からの講評・助言 5 報告会へ出席・講評・助言等へのお礼（代表：高等学校生徒会長） 6 閉会式 小学校児童会長による「開式の言葉」			
指 導 上 の 留 意 点	1 報告会の企画立案に当たっては、生徒の発想や考えを生かすよう配慮する。 2 報告会が円滑に運営できるよう、小・中・高等学校の事前打合せを綿密に行う。 3 来賓が活動を理解できるよう、活動の様子を示すパネルや壁新聞等を作成する。 4 報告会には、清掃活動等に協力いただいた地域住民を招き、活動を評価してもらう。			
評 価 の 観 点	関心・意欲・態度	地域の基幹産業である観光に対して関心を持つとともに、地域社会に貢献する他校種の活動に関心を持っている。		
	思考・判断	他校種と連携した、児童会・生徒会活動として地域への社会貢献を行う活動について、工夫・改善の方策を考えることができる。		
	技能・表現	地域の活性化の方策について自分の考えをまとめるとともに、地域の活性化に向けて具体的に行動することができる。		
	知識・理解	各校種における活動のねらいを理解するとともに、地域社会の一員として地域社会に貢献する活動の重要性について理解している。		
行 事 後 の 指 導 例	1 各校種の活動についての感想と、今後の社会参加活動について考えをまとめる。 2 地域や保護者の方たちの声を集約し、学校だよりなどで公表する。			
関 連 し た 年 間 計 画 中 の 活 動	4月	年間計画の作成 環境美化活動（清掃・花壇整備）	8月	見学旅行に向けた準備（観光アピール活動の準備）開始
	6月	地域行事への参加（地域の観光祭の運営補助役員）	10月	見学旅行先における観光アピール活動
	7月	観光ボランティアガイド活動（自然散歩遊歩道におけるガイド活動）	11月	【展開例】社会貢献・社会参加活動の活動報告会の開催
			3月	年間の活動反省と次年度への引継ぎ